

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおいにぎわいのある親しまれる港づくり		30年度事業・施策評価結果		港営部 プレジャーボート対策 担当課長
施策名	良好な港湾空間の形成		成果	コスト	
事務事業名	放置艇対策の推進				連絡先 052-654-7864
目的	対象(誰・何を)	放置艇及び係留施設等工作物並びにそれらの所有者			事業 期間
	意図(どうい う状態にしたいか)	災害・安全対策や良好な港湾環境形成の支障とならないよう、放置艇等を適正に係留保管できるようにします。			
概要	放置艇の収容施設の整備に合わせ、港湾法第37条の11の規定に基づき指定した放置等禁止区域の定期的な巡視を行うとともに行政指導を行い、放置艇等を誘導・撤去します。「係留・保管能力の向上」と「規制措置」を両輪とした放置艇対策を推進するため、新舞子ボートパークに継ぐ恒久係留保管施設の整備について検討・調整を進めていきます。				根拠 法令等
令和元年度の実施予 定	職員による放置等禁止区域の定期的な巡視を行います。また、弥富ボートパークについては、昨年度行った事業化検証調査に基づき、整備に向けて調整を進めていきます。				実施義務
					関連 シート

2 DO(実施)

令和元年度に実施した 内容・結果	職員による放置等禁止区域等の定期的な巡視を行いました。放置等禁止区域以外で、自主管理団体がいないため新規の放置艇が増加傾向にある筏川地区については、特に重点的に巡視を行いました。また、弥富ボートパークの事業化について庁内合意を図りました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	45,495	41	41	15,192	平成29年度の事業費は、放置等禁止区域内の放置物件の撤去、処分作業を実施した実績金額です。平成29年度に、放置等禁止区域の拡大が終了し、事務事業配分を変えたため人件費が減額となりました。
人件費	千円	22,973	11,720	11,369	15,354	
合計	千円	68,468	23,266	11,410	34,381	

3 CHECK(検証)

成果目標名		29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
巡視及び行政指導 を行った回数(回)	目標	36	36	48		48	放置等禁止区域の定期的な巡視及び行政指導を行った回数。適正な巡視および行政指導の回数は月4回程度である。	
	実績	49	47	46				
(単年度管理型)	事業進捗状況(元年度)		<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値をやり下回る <input type="checkbox"/> 目標値をやり下回る					
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(元年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	定期的な巡視を行い行政指導などを行った結果放置艇の隻数は減少しました。巡視については、効率よく、同日で多くの場所を精力的に回ったため、回数的には月4回の目標をわずかに下回りました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？						
	○	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか？						
有効性	○	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？						
	○	期待どおりの成果が得られているか？						
効率性	○	最小のコストとなっているか？						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	放置等禁止区域の拡大指定に向けて放置艇等の移動・撤去を確実に 行っていく必要があるため。 なお、巡視の効率化により、48回で巡視する範囲を46回で巡視できたため 成果・コストは維持とします。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題		2年度以降の取組	
放置艇対策を推進するためには、放置等禁止区域の拡大を検討する必要があります。また、弥富ボートパークの整備を推進するため、令和元年に事業化の庁内合意を得ましたが、引き続き予算の確保等を行い整備を進めていく必要があります。		放置艇の移転、収容のための受け皿となる新舞子ボートパークの空き状況を注視しながら、放置等禁止区域の拡大を検討していきます。また、弥富ボートパークの事業化を推進していくために予算の確保等を行っていきます。	